

2. SDGs 目標別ポイント解説



目標 12: 資源のムダをなくすための「つくる責任つかう責任」

(1) 目標 12 「つくる責任つかう責任」とは

持続的開発を阻む要因の一つには、食品廃棄や有価物の投棄など資源の浪費が挙げられます。目標 12 では、少ない資源で良質でより多くのものを得られるような生産や消費ができる形態を求めています。

そのためには、生産工程での廃棄物の発生抑制、ユーザーへのリサイクルやリユースの協力の呼びかけ、および実際に行われることが不可欠となります。

ほかにも産業界、政治家、メディア、消費者、地域共同体などを総動員することで、持続可能な生産と消費の形を作っていくことを目指し、策定されています。

(2) 食料の「つくる責任つかう責任」

世界の食用農水産物のうち、およそ3分の1が消費されることなく廃棄されています。

この目標 12 のうち、特に大きく取り上げられるものとして食品廃棄、いわゆる食品ロスがあり、目標 2 「飢餓をゼロに」とも関連しています。

食品ロスが発生する段階は先進国と途上国では異なりますが、先進国である日本では販売や消費段階での食品ロスの割合が高いため、必要以上の食品の供給を抑えることが求められます。

私たちの食生活の中でも、余分に購入し過ぎない、食材は使い切る、調理されたものは残さない、といったことに注意する必要があるでしょう。

また、食品ロスだけでなく、資源のリサイクルやリユースにも気を配る必要があります。2000 年を境に日本のリサイクル率は上昇し続け、2012 年には 20.4% に達していますが、世界的に見れば日本のリサイクル率はまだまだ高いとは言えず、韓国やドイツ、オーストラリアに比べると大きく下回っていることから、さらなる取り組みが必要となります。

(3) 企業による「つくる責任つかう責任」

企業単位で見れば、廃棄物の発生を抑える取り組みや化学物質などの環境負荷を抑えるといった取り組みも必要です。

業種によって何を目標にするかは異なりますが、組織的に持続可能な消費・生産形態

の実現に貢献するためにも、それぞれにできる目標設定が重要となります。

また、クローズド・ループ・システムへの取り組みを進める事業者もいます。これは市場で販売した製品を使用後に回収し、部品を再生あるいはリサイクルすることで、埋立地に送る廃棄物をできるだけ抑制するという取り組みです。

このような廃棄物の抑制や再利用も今後はさらに促していくことが、目標達成には不可欠となります。

目標12「つくる責任つかう責任」は、個人レベル、企業レベルで実行できるものは異なります。しかし、食品ロスをなくす意識を持ち行動するなど、まずは自分自身で出来る事から実行していくことが重要となります。

<執筆者> 株式会社吉岡経営センター

コンサルティング部(福祉) 國分 涼太

<プロフィール> 主に、福祉施設、介護事業所に対する人事制度の提案や研修企画、講師などを行う。